

(平成29年2月27日)

第22回 赤松小三郎研究会のご報告

日時 : H29. 2. 21 (火) 18:30~20:30
場所 : 東京・文京シビックセンター 4F B会議室
出席者 : 16名

< 配布資料 >

- ・ 信濃毎日新聞 (2月21日朝刊記事) のコピー 維新の残響
- ・ 「暗殺5日前 龍馬の手紙」解説・解説 ~大橋邦夫さん作成
- ・ 資料—1①「憲政史特別展第1回展示目録他の説明骨子」~石川浩さん作成
- ・ 資料—1②「憲政史特別展第一回展示目録」~石川浩さん作成
- ・ 資料—2「信州上田三吉家に伝わる歴史的所蔵品~龍馬と上田の不思議な関わり」~山越雅明さん作成
- ・ 資料—3「赤松小三郎ともう一つの明治維新」を読んで~赤松小三郎研究会として認識を共有すべきこと (憲法構想を中心に) ~荻原貴さん作成

< 回覧資料 >

- ・「第18回全国龍馬ファンのつどい in うえだ {2006年} 特別展パンフレット」~山越雅明さん持参
- ・「米熊、慎蔵、龍馬会 15年のあゆみ」~山越雅明さん持参

< 内容 >

- 最初に、赤松小三郎研究会設立当初より、多くの有益なご助言を賜り、また多大なるご尽力をいただいた (故) 宮原安春様の御霊へ全員で黙祷を捧げた。
- 龍馬暗殺の5日前に龍馬が福井藩重役の中根雪江へ差し出した書状の解説。福井藩士の三岡八郎 (由利公正) を早く新政府へ出仕させるよう裁可を願い出た書状~大橋邦夫さんが書状原文を解説し解説。
- 昭和53年2月 (今から39年前) に憲政記念館に於いて「憲政史特別展第1回」が開催されており、そのとき幕末政治と公議政体論のコーナーですでに赤松小三郎建言 (続再夢紀事の当該部分原本) が展示されていた。過去に憲政記念館で赤松小三郎の建言書が展示されていたことは新発見である。~石川浩さん
- 上田の三吉家に伝わる龍馬写真原板や三吉慎蔵宛て書状、その他著名人の揮毫などの目録を紹介。いろは丸事件の解説。防衛大学校図書館蔵の「英国歩兵練法」原書のお話し~山越雅明さん
- 昨年12月に出版された関良基氏 (当研究会会員) 著の「赤松小三郎ともう一つの明治維新」の「第2章 赤松小三郎の憲法構想」を中心に小三郎の「御改正口上書

(数件御改正之儀奉申上候口上書) を現行憲法との比較を交えながら検討した。

～ 荻原貴さん

[全体の要点]

1. 赤松小三郎の「御改正口上書」は、普通選挙によって選出された議会に立法権が帰属するという、いわゆる「議会制民主主義」の政体構想を日本で最初に建白した歴史的な文書で、かつ、現行憲法につながる憲法構想であった。
2. 赤松の憲法構想は決して特質な少数意見ではなく、江戸時代末期は多くの日本人が現行憲法につながる「人類普遍」の内容を持つ憲法構想を支持していた。
3. 赤松の「御改正口上書」の構想と内容が基本的に矛盾するところがない「薩土盟約」のまま事態が推移していけば、日本は現行憲法の75年以上前に、民主的な議会が開設され、基本的人権を含む憲法を戴く、立憲君主国に移行していたはず。その負への分岐点は、薩摩による「薩土盟約」の破棄と武力倒幕路線への転換であった。

[薩摩の薩土盟約破棄の理由] (上記3. の補足)

1. 薩摩が挙兵を急ぐことになったにもかかわらず、土佐が出兵を取り止めたこと。
 - ・薩摩は当初から薩摩一藩での武力倒幕は無理と考えていた。
 - ・挙兵を急ぐことになった理由: ①長州藩をはじめとする諸藩士や過激派浪士の突き上げ ②アーネスト・サトウによる武力倒幕の挑発
2. 土佐が用意した大政奉還建白書の草案に、薩土盟約約定書の第4条「慶喜の將軍職辞職要求」が欠落していた。
 - ・薩摩としては、將軍職は朝廷の摂関職とともに何としてでも廃止すべき対象と考えていた。

赤松小三郎研究会 事務局

小山平六 (62期)

荻原 貴 (79期)